

よきことを、よきひとへ。

被災地復興に取り組む人のための業界新聞

<http://www.rise-tohoku.jp/>

発行所 NPO 法人 HUG

〒151-0053 東京都渋谷区代々木 2-10-9-8F

<http://www.h-u-g.jp> e-mail: info@h-u-g.jp

東北復興新聞

無料

第27号

月1回 発行

創刊 2012年(平成24年)1月16日 月曜日

2013年(平成25年)8月26日 月曜日

特集 4-5面

福島県双葉郡発 復興を担う新たな教育とは



仮設内に包括ケアセンター開所

復興と足並みをそろえた 地域包括ケアを

石巻市の開成仮設住宅団地内に、包括ケアセンターが開設された。医療、介護、福祉などを統括して、仮設住民の健康や生活をサポートする。長期化する仮設生活による住民のさまざまな課題の解決を図るとともに、国が推進する「地域包括ケアシステム」のモデルとなるよう期待が寄せられている。

被災地固有の課題解決を視野に

地域包括ケアとは、介護が必要になった高齢者でも、住み慣れた自宅や地域で尊厳を持って暮らし続けられるようにサポートする仕組みのこと。住まい、医療、介護、予防、生活支援等の様々なサービスが連携し、

包括的に提供されることを目指している。進行する高齢化は被災地に限らず全国の課題であり、厚生労働省は団塊の世代が75歳以上となる2025年を目前に、各地域における包括的なサービス提供体制の構築を

推進している。具現化へ向けて全国各地で取組が進められているが、被災地は固有の課題を抱えている。一つは震災の被害という側面。阪神淡路大震災においても、発生2〜3年後前から自殺者が急増したという例もある。仮設生活が長期化する中、今後さらに心身両面でのケアが必要となる。

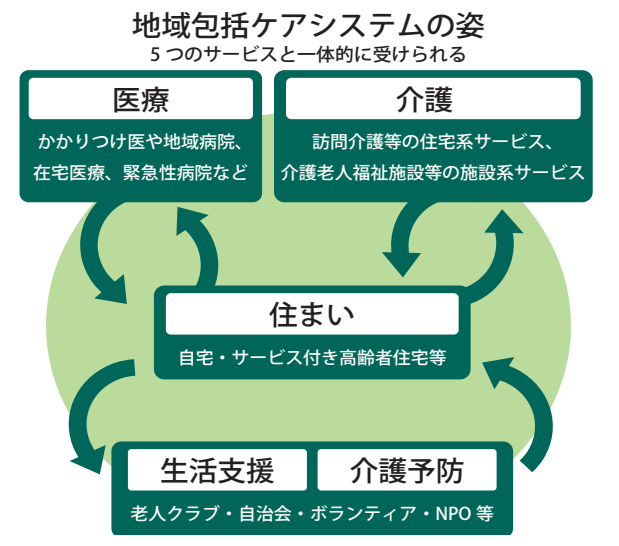
もう一つは、地域コミュニティの側面。地域包括ケアは病院や介護士のようなサービス提供者だけでなく、地域住民も含めて支え合うコミュニティの重要性が高い。震災により、多くの地域で

元々のコミュニティが離散した。今回の包括ケアセンターは主に仮設住民を対象としたものだが、「今後また仮設住宅から恒久住宅へと移行が始まる。コミュニティの再構築を含め、復興の状況と足並みを揃えていく必要がある」と宮城復興局の担当者は話す。

13年度中にモデルを構築

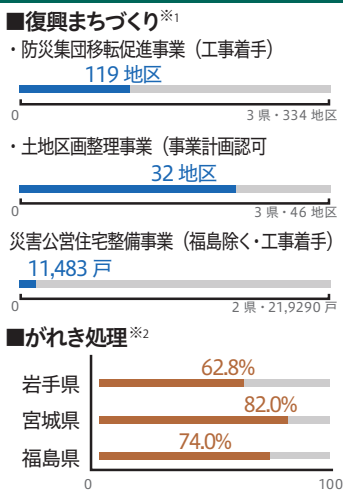
包括ケアセンターが対象とする開成・南境地区の仮設団地には、5千人近い住民が住む。開成団地内には昨年より石巻市立病院の仮診療所が設置され、住民に医療サービスが提供されてきた。加えて、支援団体等の外部との連携体制が構築され、保健師や看護師など他職種の専門家が集まり情報共有を行う「エリア会議」も行われてきたことが、今回のセンター開設の大きな素地になっている。

先駆けとなるよう、課題の洗い出しや各プレイヤーの役割設計等を行い、今年度中にモデルをつくっていく」と話す。また復興庁も、自治体への職員派遣のスキームを活用して人的支援等を検討していくとしている。



厚生労働省資料より。おおむね30分以内に必要なサービスが提供される日常生活圏域(具体的には中学校区)が単位として想定されている。

数字で見る復興進捗状況



2面 「ITで日本を元気に！」 代表 佐々木賢一さん リーダーズインタビュー



仙台が復興に
果たせる役割がある

3面 [寄稿] 東北と世界を つないだサマープログラム



6面 南三陸町高校生語り部 「まずもって」



東北のいま

7面 高知県 四万十市



地デザイナーが住める
おもしろい大学

シリーズ
他地域に学ぶ

東北の未来を担う、「右腕」を募集。



NPO法人ETICは東北の事業創造や地域再生に取り組むリーダーを支えるため「右腕派遣プログラム」を実施し、約2年間で160名の人材を東北に派遣してきました。

「5年後も10年後も若者たちが集い、起業家精神あふれる東北」を目指し、これからも東北の「担い手」を送り続けます。事業の担い手(右腕)になりたい方がいましたら、是非ご紹介ください。また右腕を募集されたい団体(も合わせて募集しております)。

みちのく仕事

検索



特定非営利活動法人 ETIC.(エティック)
〒150-0041 東京都渋谷区神南1-5-7 APPLE OHMI ビル4 階
TEL:03-5784-2115 FAX:03-5784-2116 E-mail: fukkou@etic.or.jp
<http://www.michinokushigoto.jp/>

みちのく仕事
マッチングフェア
2013年10月12日

東京に復興リーダーが集う！

活動支援金15~25万円/月を支給
※3か月以上コミットする社会人の場合

詳細は9月中旬、WEBで公開

東北から全国モデルとなる 先進的な取り組みを

復興庁が行う「新しい東北」先導モデル事業の募集が21日に締め切られた。震災後に各地で行われている先進的な取り組みを発展させることを目的として、9億円の事業費を充て60件程度の採択を見込んでいます。政府による復興への象徴的な取り組みとなる本事業について、ポイントを整理したい。

まずは、ソフト分野を対象としていることだ。「復旧ではなく復興、元へ戻すだけではなく新しい取り組みを」とはよく言われるが、復旧事業以外に復興予算を出すことは容易ではなく、今まで多くの場合民間支援に頼られてきた。ソフト分野の復興の取り組みを政府が支援するのは、この規模の事業として

初めてと言える。また、国の支援事業は業務委託契約となることが多いが、今回は業務請負契約となっており、行政が委託した通りに実施するのではなく、成果に対しての支払いとなるため、費用の使途も事業主体に委ねられている。行政の代替ではない、民間による新しい動きを復興庁が

サポートしている形だ。さらに、官民連携も強く意識されている。復興庁では復興推進委員会の「新しい東北」提言を受け、復興事業の推進を支えるための人材および資金面のプラットフォームも並行して整備を行っている。モデル事業で民間の新たな取り組みを支援しつつ、プラットフォームを介して官民連携を促

「新しい東北」先導モデル事業 国の本気度がうかがえる自由度の高い事業

進しながら効果を最大化する。そうした狙いが見える。政府としては通常慎重になる自由度の高いこの事業が実現したのは、首相も交えて相当数の議論を重ねた背景がある。復興における国の本気度が表れているとも言えるだろう。すでに東北各地で話題になっており、数百以上の申請が上ると推測される。9月末には採択結果が発表されるので注目したい。

(文)RCF復興支援チーム・藤沢烈

復興庁発表の「新しい東北」目標像

5つのテーマ	具体的施策イメージ
元気で健やかな子どもの成長を見守る安心な社会	子どもの居場所づくり(全天候型運動施設) プレイヤーの養成
「高齢者標準」による活力ある超高齢社会	次世代地域包括ケアシステム コミュニティケア型集合住宅
持続可能なエネルギー社会(自律・分散型エネルギー社会)	再生可能エネルギー設備の設置や先進的な研究開発の実施
頑健で高い回復力を持った社会基盤(システム)の導入で先進する社会	ICTを活用した情報提供 地域コミュニティの再生
高い発信力を持った地域資源を活用する社会	地域ぐるみのブランド野菜生産 大学等の知的資源を活用した地域産業の復興支援

リーダーズインタビュー

Q. 支援活動の継続にあたり、どのようなことを意識していますか

昨年以降、東北では起業や新たなチャレンジをする人が少しずつですが増えてきています。震災という大変な経験をを経て、人生を見つめ直している人が多いように感じます。一方、まだ一つひとつの力は弱い。その流れを持続させるためには、成功事例をつくりヒールを生み出していく必要があるでしょう。支援者の重要な役割は、そのために盛り上げることや、

Q. 具体的にどのような活動がありますか

少し前になりますが3月に行ったイベントは大

ハブとして外部とつながることだと思っています。

とした東北企業のショー・トブレゼンも好評でした。うち2社は震災後に起業した会社でしたが、こう

先進的な取り組みを進めてきた結果、今がある。そしてその中心にはシンボルとなるようなリーダーがいる。やはり人な

Q. 今後の取り組みを教えてください

仙台を拠点にIT企業を経営する身として、経済面での復興に貢献していきたいです。仙台は地

東北から新たなアントレプレナーを。 仙台が復興に果たせる役割がある



佐々木賢一さん
トライポッドワークス株式会社代表取締役社長
震災復興支援プロジェクト「ITで日本を元気に！」代表
【プロフィール】
仙台と東京を拠点にIT企業を経営する。また、震災後はPC設置等のIT化支援や現地企業のマーケティング支援を中心に活動している。

盛況でした。「東北は変わったのか? 変わるのか?」と題して、震災からの復興に限らず東北としての経済活性化などをテーマにしたもの。スタートアップ企業を中心

また、過疎地域の活性化の優良事例として知られる徳島県神山町との連携も進めています。神山はサテライトオフィスの誘致で注目を集めました。が、それ以外にも多くの

域の中核都市としてさまざまな役割を負っています。復興においても、その存在感を出していくべきだと思います。東北は日本全体の17%の面積が

ありますが、復興においては、復興において、その存在感を出していくべきだと思います。東北は日本全体の17%の面積が

域の中核都市としてさまざまな役割を負っています。復興においても、その存在感を出していくべきだと思います。東北は日本全体の17%の面積が

チャンスが多いのです。東北大学など優秀な学生が多く、地域に強力な競合も少ないので優秀な人材確保がしやすい。また良い意味でコンパクトなので行政やメディアとの

環境を発信するとともに、直接支援を含めて分かりやすい成功事例を生み出していきたい。仙台が東北アントレプレナーシップ(起業精神)の町になればと思っています。

距離が近く、規模が大きい東京と比べてさまざまなリソースを活用しやすい環境にあります。東京へも1時間半で行けるようになりました。仙台でものづくりを行いつつ東京に営業拠点といったモデルも組めるでしょう。少しずつ芽は出てきていますが、仙台はもともと起業のポテンシャルがあると思っています。こうした

笑顔運ぶサッカー教室。

JFA・キリンスマイルフィールド

開催希望小学校募集のお知らせ

運動が苦手な子どもたちも、運動が大好きな子どもたちも。みんながいっしょに楽しめる、サッカーボールを使ったプログラム。サッカー日本代表経験者が岩手県・宮城県・福島県の小学校を訪問します。

www.jk-smilefield.jp

お申し込み・お問い合わせ JFA・キリン スマイルフィールド 事務局
0120-773-903 受付時間:10時~17時(土日・祝祭日を除く) お問い合わせ メールアドレス info@smilefield.jp

●開催日時:2011年9月~2013年12月末日(予定) 日時は学校側のご都合に合わせて実施します。
●開催場所:小学校内(校庭や体育館など) ●学校側の費用負担はございません ●ボールやゴールなどは寄贈いたします
このプロジェクトは、「復興応援キリン絆プロジェクト」の一環として、子どもたちにサッカーを通じて笑顔になってもらいたいとの想いから、日本サッカー協会(JFA)とキリングループが協力し、岩手県・宮城県・福島県の小学校を対象にした巡回型サッカー教室です。

復興応援
キリン
絆プロジェクト
笑顔で結ぶ、人と、日本を。

寄稿

「東京大学イノベーションサマープログラム」

東北と世界をつないだサマープログラム

復興の現場はイノベーションの最前線

英語のサマープログラムを作り世界中から人を集めて行う「東京大学イノベーションサマープログラム(TISP)」が8月1日から開催された。10日間の東大駒場キャンパスでの講義の後、岩手県大槌町にフィールドワークに行くという全2週間の日程で行われ、海外からの学生30名と東大生

30名の計60名が参加した。

音頭をとったプログラムリーダーの東大工学部の堀井秀之教授は10年来の友人で、私が働くハーバードビジネススクールの核となる教授法であるケースメソッド(具体事例(ケース)に基づき議論をして学ぶ手法)を東大の教育に浸透させたという話を以前からしていた。そんな縁から、今回4日分のケースプログラムの開発・実施を私が担当す

ることになり、東北復興をTISPの全体テーマの一つとして取り上げることにした。定期的に被災地を訪問し記事やケースを作成していた経験から、今復興の現場で起きていることは、世界に発信すべきものがたくさんつまっている、イノベーションの最前線だと強く感じていたからだ。

東北復興を扱った二日間では、宮城県山元町で大規模いちご農園GRAを経営する起業家、岩佐大輝さんのケースと、被害率は最も高いにも関わらず復興のス

ケースメソッド×東北

ピードが最速と言われている宮城県女川町の復興のケースを用いた。海外の学生はもちろん、東大生もほとんどが被災地には行ったことがない、というグループに対しての講義であることを考慮し、現地で撮影した映像も講義中に多用した。ケースの議論を通じて、学生たちは山元町や女川町の状況への多面的な理解を深め、唯一の正解などない中で決断していくことの難しさを体感していた。例えば、女川町のケースを読み解きロールプレイを行うことで、町は、企業とは違っ

て一つの理念でまとまりやうのない有機体であることや、そこでどう復興していくかを考える上では、数々の関係の中で対立が起きながらも、前に進むためには決断しなければならないという難しい問題であるということを実感した。そして議論を経た後は、グループディスカッションによる提言を行った。しっかりと議論と、多国籍のチームでの議論だからこそ生まれる躍動感のある発想が組合わさった本質的な提言で、運営側やゲスト登壇者達を驚かせる結果となった。



7カ国から30名の外国人が参加。講義やディスカッションはすべて英語で行われた。

復興現場の知見を学びに

ケースとは、そこに書かれている状況を想像し「自分だったらどうするか」ということを考え議論するものである。その手法を復興と組み合わせた教育を行ったことで、たった二日間、世界と東大の学生は、復興という複雑かつ長期的な課題について、おそらく多くの日本人より、はるかに深い理解を育んだと思う。それは、世界と東北が頭と心でつながる場であり、復興の現場で起こっていることの世界的な意義を再確認した場ともなった。

(文/山崎蘭加 ハーバードビジネススクール)

2分でわかる! NEWS ダイジェスト

7月21日~8月16日

政策

石巻市、コンパクトシティを整備

宮城県石巻市は、JR石巻駅周辺に包括ケア、防災、地域交流の拠点を整備し集約する方針を固めた。市立病院も16年に再建する。

岩手県、復興事業工程表を改訂

岩手県は8日、県内12市町村の復興ロードマップの改訂版を発表した。災害公営住宅など16%の事業の完了時期が延びている。

生活・まちづくり

常磐線、広野 - 竜田運転再開へ

JR東日本が、原発事故の影響で不通だったJR常磐線の広野(広野町) - 竜田(楡葉町)間を14年春に運転再開する見通しを示した。

石巻市で包括ケアセンター開設

宮城県石巻市は、開成地区の仮設住宅団地に「開成包括ケアセンター」を開設し住民の健康を支援する。センター開設は東北で初めて。

浪江町、二本松に復興住宅を整備

福島県浪江町は、仮の町の候補地として初めて二本松市油井根柄山に復興住宅を整備することを決めた。15年度中への入居を目指す。

いわき市、住宅再建補助金創設

福島県いわき市は、災害危険区域外の住宅再建を支援する被災住宅再建事業補助金を創設した。住宅借入金の利子などを補助する。

山元町、新市街地を整備開始

宮城県山元町で、JR常磐線の移設により新設した新山下駅周辺に新市街地を整備する工事が始まった。15年3月に完了予定。

災害公営住宅が岩手2市町で着工

岩手県陸前高田市下和野区と山田町豊間根地区で31日、災害公営住宅が着工した。それぞれ120戸と72戸を整備する。

気仙沼2地区、区画整理が始動

宮城県気仙沼市の鹿折地区と南気仙沼地区で、土地区画整理事業が開始した。17年度末に事業完了を目指す。

農業・漁業

八戸港、復旧工事が完了

根本復興相は、青森県八戸市の国の重要港湾である八戸港の復旧工事が被災した港湾の中では初めて、全て完了したと発表した。

福島県2漁協、試験操業を延期

相馬双葉漁協といわき市漁協は、福島第1原発の汚染水漏れを受けて、9月から予定していた試験操業を暫く延期する方針を固めた。

気仙沼市、冷蔵工場が再建

宮城県気仙沼市の水産加工業協同組合は、赤岩港に被災した冷蔵工場を再建し8月中旬より稼働を開始した。

原発・放射能

川俣町山木屋地区、2区域に再編

原発事故で計画的避難区域に指定されていた福島県川俣町山木屋地区が8日、居住制限と避難指示解除準備の2区域に再編された。

その他

岩手県、グーグルと広報協定

岩手県は、災害時における住民への情報提供においてグーグルと広報協力の協定を結んだ。グーグルは大船渡、釜石など県内4市町とも協定を締結する。

釜石109が期間限定オープン

岩手県釜石市の女子中学生が送った手紙がきっかけでシープラザ釜石に8月16日、17日の2日間限定で「渋谷109釜石」がオープンし賑わった。

避難指示区域にコンビニ

セブンイレブン・ジャパンは福島県楡葉町の避難指示区域内にコンビニ店舗を再開すると発表した。

セクターの垣根を越え、より専門的に、より熱く……

東北復興新聞が企画・監修・運営する、

復興現場で活躍するリーダーたちのオピニオンサイトがオープンしました。

TOMORROW

— 灯ろう、明日へ。 —

灯ろう、明日へ。

検索

福島県双葉郡発、復興を担う新たな教育とは

「双葉郡教育復興ビジョンに託す子供たちの未来」

地域の大半が警戒区域・計画的避難区域に指定されている福島県双葉郡。

生活再建に向けて今なお大きな困難を抱えるなか、

8町村が協議を重ねて「教育復興ビジョン」を取りまとめた。ビジョン策定の背景にある思い、

そしてビジョンに託す地域の未来像を大熊町教育委員会教育長の武内敏英さんに伺った。

福

島県双葉郡双葉地区教育長会は2013年7月31日、「福島県双葉郡教育復興ビジョン」を策定し、下村博文文部科学相に提出した。原発事故の影響で、今なお厳しい状況にある双葉郡の子供たちのため、同教育長会は郡内8町村の教育長に加え、福島大学、文科省、復興庁などから委員を招き、2012年12月から「福島県双葉郡教育復興に関する協議会」を開催し、郡ならではの復興教育のあり方について、中長期的視点から協議を重ねてきた。

ビジョンのねらいは、双葉郡の復興や持続可能な地域づくりに貢献し、全国、世界で活躍できる人材を育成すること。子供たちの実践的な学びで地域を活性化し、復興につなげることを目指している。具体的方策としては、(1) 中高一貫校の設置など、一貫した価値観の目標やカリキュラムによる教育、(2) 大学、企業、NPOなど、多様な主体との連携による教育の充実、(3) 避難している子供たちや住民との絆づくりという3本柱を掲げ、全国のモデルとなり得る非常に先進的な内容だ。

子供たちに第3のオプションを

今回のビジョン策定に至った経緯をお聞かせください。

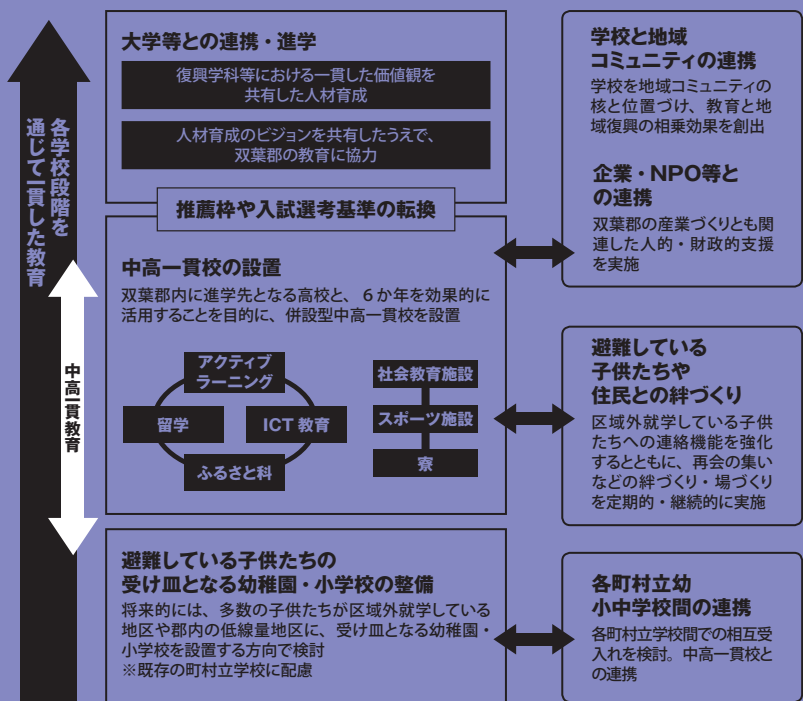
双葉郡の8町村では、それぞれの避難先で学校を立ち上げる努力をしてきました。しかし、学校を再開し

ても子供は思っていたほど戻ってきてくれません。郡内の小中学校に通うのは、現在双葉郡全体の子どもの1割に過ぎず、いち早く立ち上げた大熊町でも戻ってきた子供は約半分です。残る9割は他地域にいますが、その子どもたちに選択肢を増やしてあげたい。郡内各町村の学校に戻ってきてほしいし、区域外の学校でもいい。さらに第3のオプションとして、双葉郡の新たな学校をつくりたいと考え

ました。8町村それぞれの努力は大切ですが、このままでは先細りになってしまふ。双葉郡全体で子供の教育を守っていくと考えたのです。

そこで「福島県双葉郡教育復興に関する協議会」を設置し、2012年12月に初会合を開催。以来7カ月あまりで、協議会だけでも8回、その他にワーキンググループを11回開きました。協議会設立当初、8町村の避難状況や置かれた立場はまちまちで、郡全体の教育という視点がなかなか共有できませんでした。それでも、目先のことばかりではなく、未来を見据えた子供たちの教育を考えるなかで8人の教育長の思いが徐々に重なり、ようやくビジョン完成までこぎ着けたところです。

福島県双葉郡教育復興ビジョン(将来像)のイメージ図



ふるさと科とアクティブラーニング

非常に先進的なビジョンですね。背景にはどのような思いが込められているのでしょうか。

これから求められるのは、モノやお金だけを重視するのではなく、人のいのちや心、一人ひとりの人間性を大切にする価値観への転換です。入

双葉地区から真のグローバル人材を

文部科学省生涯学習政策局 参事官(連携推進・地域政策担当) 付 専門職 南郷市兵さん

双葉地区教育長会から、郡内の教育環境整備への支援を求める要望書をいただいたのが2012年9月。文部科学省でもぜひ後押ししようと、協議会に2名の審議官が加わるなどして、ビジョン策定のプロセスに積極的に関与してきました。私も事務方として、すべての会合に参加してきました。

これからビジョン実現に向けて求められるのは、地元のマンパワーの底上げです。ビジョンに掲げたさまざまな連携を進める上でも、復興教育を牽引する主体として、さらに双葉郡での取り組みを東北全体に広げる役目を担う人材が求められます。全体をコーディネートし、効果的な協働を生み出す組織的な枠組みも必要かもしれません。

協議会での議論や地域の方々との対話を通して確信したのは、双葉郡の子供たちこそ「グローバル人材」の素地を持っていること。私はここに大きな希望を感じています。非常に辛い体験を経た子供たち

には、たくさんの伝えたい思い、語るべき内容があります。そして、復興に向けて行動したいという並々ならぬ意欲があります。先日も文科省で進めている「OECD東北スクール」という復興教育プロジェクトの関係で、双葉郡の中高生数名を連れてパリを訪れましたが、ものすごく堂々とプレゼンテーションをするし、原発についてフランス人の生徒と侃々諤々の議論をしたりもしていました。

ビジョンでも、地域の復興だけでなく世界に貢献できる人材育成をうたっていますが、子供たちが震災の体験を踏まえて思考し、学びに昇華・発展させ、その経験を世界に発信できるよう、あらゆる知恵とリソースを総動員してサポートしたい。そして、双葉郡から全国のモデルとなる教育復興を進めたいと考えています。きっと双葉郡の中高生の姿が地域の大人も動かし、力強い双葉郡復興のうねりが起こってくると思います。



特集



大熊町教育委員会教育長
武内敏英さん
Toshihide Takeuchi

「ふるさとへの思いを 胸に世界にはばたけ」

試ばかりに重きが置かれる教育観の転換も欠かせません。今の子供たちは、人格形成に大事な思春期を入試で忙殺されています。そこで新たな中高一貫校の設置をビジョンに盛り込みました。6年間を通して友だちと語り合い、いい教師や教材に巡り会い、卒業後の生き方をゆったりと考えてほしいからです。

ここで大切にしたい教育内容の一つが、地域という地に足の着いた視点です。大勢の子供たちが避難を余儀なくされているからこそ、双葉郡出身というアイデンティティを失わないでいてほしい。ある大学の先生から、そのために必要なのは祭りとお墓だと伺いました。年に1回でも、全国に散った仲間が祭りのために集って旧交を温める。あるいはお墓参りを通してご先祖とのつながりを実感できる。郡内の学校ではすでにふるさととの視点を取り入れています。今回のビジョンではさらに一歩踏み込んで「ふるさと科」を創設し、祭りの練習をカリキュラムに組み込むことな

どを想定しています。

企業やNPOなどの多様な主体との連携した教育をうたっています。

大熊町教育委員会としては、すでに今年1月に会津大学と教育連携に関する協定を結んでいます。その一貫で会津大の学生さんに小中学校に来てもらうことがあるんですが、学生さんはすごい力を持っています。「あのお兄さんみたいな大学生になりたい」と熱心に勉強を始める子供もいるほどです。ある意味で親や教師よりも教育力を持っているのです。

企業との連携についても、大熊町では企業の社員による出張授業を取り入れています。得意分野を持つ専門性の高い人材を派遣してくれるので、子供たちは目を輝かせて勉強しています。大学や企業との連携は、双葉郡としての教育にもぜひ取り入れていくつもりです。

こうした新しい取り組みを始める教員の姿勢も変わります。何でも先に教えてしまうのではなく、まず子供たちの課題意識を高めようとする教師が出てきています。そこで多少時間がかかっても、意識づけができた子供は、どんな主体的に学べるようになるのです。

片足はふるさと、もう一方の足は世界へ

双葉郡、そして東北の未来のために、教育はどんな役割を果たせるでしょうか。

復興には非常に長い時間がかかります。次世代に託すしかありません。主体性をもって、かつ仲間と力を合わせられる人材を生み出さないとなりません。そのためにはやはり教育です。

自ら課題を見つけて解決策を考えられる子供を育てるため、新たなカリキュラムは「課題解決型学習（アクティブラーニング）」という考え方で進めたいと思っています。地域の課題や復興についてもこの手法で学び、実際の復興に生かしてほしい。祭りや再会の集いの企画・運営も、地域内外とつながる実践的な学びの場となるでしょう。教師ではなく生徒が主体となる教育をつくっていききたいですね。

ビジョンでも「創造力と想像力、この2つの力で子供たちの夢と人間力を育て、地域の復興に主体的・協働的に関わる人材を育成する」という理念を掲げました。いまの日本には、「私」という個人と「私たち」という社会の相互作用がありません。「私たち」に思いを馳せるには、創造力（クリエイティブ）と想像力（イマジネーション）が必要なんです。主体的に何かを創造すればクリエイティブではありますが、「みんなはどう思うだろう？世界ではどうだろう？」と想像するイマジネーションも豊かでないといけない。

双葉郡の子供には、片方の軸足をふるさとに置きつつも、もう一方の足で世界に踏み出してほしい。そのために学校側も「片足はふるさとに、もう片足は世界へ」という視点で取り組みたい。地域に育てられたという思いがあれば、世界のどこに行っても、ふるさとを忘れることはないでしょう。そして、直接間接に将来の復興に力を発揮してくれるものと期待しています。



根本匠復興相へビジョンを手渡しする武内教育長

一貫校、早ければ15年度の開校へ

文科省へビジョンを提出し終えた今、中高一貫校の設置場所についてなど、議論はより具体的なステージに移っている。武内さんは「子供たちの現状を思えば1年でも早く開校したい」と、早ければ2015年度の開校を目指して、9月にも実行部隊となる新たな協議会を設置する意向だ。多様な主体との連携を軸とするビジョンの実現に向け、地域内外のさまざまな人・組織の参加が求められている。

「地元ファースト」で応援し続けたい

公益財団法人 東日本大震災復興支援財団 専務理事 荒井優さん



私は教育の専門家ではありませんが、復興を応援する民間の立場から協議会に参加させてもらっていました。議論に加わり始めてまず思ったのは、子供たちは何を望んでいるのだろうか？という点です。

そこで今年3月下旬に協議会主催で「福島双葉郡子ども会議」を開きました。郡内の小中学生25名と、その保護者や引率の先生方、行政関係者など、総勢80名あまりが集まり意見交換を行いました。子供たちの口から出たのは、自分のことだけでなく、町のため地域のために何かしたいという思い。熱心に耳を傾けていた教育長さんたちは、とても感銘を受けていた様子でした。

ふり返ってみると、この子ども会議を1つの契機に、8人の教育長さんたちがまとまり始めたように思います。子供たちの声を聞くなかで、本当に子供たちのためになる教育をつくらう、という思いを改めて共有できたのかもしれない。ビジョンを取りまとめることができたのは、

現場でがんばっている教育長さんたちがあきらめず対話を重ねたからでしょう。前に進む力を生むのは、けっきょくは人の熱意なのだ実感しました。

ビジョンの実現に向けて、何より優先されるべきは地元の方々の思いです。徹底的な「地元ファースト」の考え方で、これからも双葉郡の教育復興を応援していきたいですね。

3月に行われた子ども会議には、児童や教員、保護者など関係者含め、80名が参加した





「[19] 南三陸町
高校生語り部「まずもって」
写真・文 岐部淳一郎」

東北のいま



佐藤美南（さとうみな）さん（16）は語り始めた。少し幼さを残すような声…でも、それは力強く、張りがある。この日、東京から南三陸を訪れた団体を案内し、最後に、自分が震災時発生時にいた南三陸町志津川（しづがわ）中学での自身の震災体験を語った。

当時、中学2年生だった佐藤さんは、翌日の卒業式の準備をしている時に震災に遭い、そのまま中学の体育館で一晩を過ごした。「広場があるんですが、どのルートを通して逃げたか全然覚えてなくて、今でも思い出せません。涙が出てきて、友達や先生の声も聞こえなくてパニックで、しゃがみこんでいました。でも少し落ち着くと、余震が続いていただけ体育館に戻りました。30分くらい経つと町の人々が避難してきて、これから『なじよすっぺかな』（どうしようかな）って話しているのが聞こえました」。

その日は、家族の安否がわからず、覚えているのは「その日、星がすごくキレイで、オリオン座がすごくはっきり見えていたこと」。そして、その星を、母と幼い頃に一緒に見た思い出だった。

佐藤さんは、震災後の6月に家族で内陸の岩手県一関に引っ越した。新しい学校で友達もできたが、一方で、毎日を楽しみと思えない自分がいた。震災前は、「田舎から早く出たいわあ」と口にするのもあったが、離れてみると生まれ育った志津川をすごく好きな自分に気がついた。親に何度も「帰りたい」と伝え、翌2012年7月に志津川に戻ってきた。そして、いざ戻ってみると「それだけで良いの？志津川のために自分にできることはない？」という思いから、学生団体「まずもって」を運営していた先輩から誘いを受けたのをきっかけに、語り部を始めた。団体の正式名称は、「まずもって、かだっ

からきいてけさいん」。……とりあえず語るから聞いてくださいを意味する南三陸の方言から来ている。

参加者は、自分の半分にも満たない年齢の子の体験に耳を傾けた。今、当たり前だと思っていることは、ある日突然大きく変わってしまうかもしれないこと……というメッセージ。佐藤さんの財布の中には、震災で亡くなった大好きだったお婆の財布の中から見つかったプリクラが入っている。3歳の佐藤さんとお婆さんが写っている。

最後に参加者の一人が「今は志津川のどこを自慢に思いますか？」と質問。佐藤さんは笑顔で答えた。「みなさんが、振り返ったら見える、この景色」。話を聞いた志津川中学は丘の上にある。海があり、奥に山が見える、リアス式海岸特有の風景だ。「これがすごく自慢です」。

「高知県 四万十市」

「地デザイナー」が彩る 田舎のアタリマエが持つ価値。

深い緑の山間から透んだ水を湛え悠々と流れる、高知県の四万十川。その中流域に、道の駅「四万十・とおわ」があった。高知市内から車で2時間半。山深い、人口3000人弱の地域にも関わらず、年商は2億円を超えるという大人気の道の駅だ。

それも頷けてしまうのは、この道の駅の持つ「デザイン力」だ。川沿いに建てられた木造平屋の味のある駅舎も、売店に並ぶ洗練されたパッケージの特産品も、巷にある道の駅とは趣が違ふ。聞けば、駅舎も商品も、あるデザイナーが携わっているという。それが「地デザイナー」の迫田司さんだ。彼の言う、地デザインとか一体何なのか。話を聞きに伺った。

デザインした牛乳が 町おこしに発展

カヌー好きが高じ、迫田

さんが都会から四万十市の西土佐地域に移住してきたのは20年前。自分の田畑を耕しながら、近所から頼まれた農産物のパッケージな

どを制作するうちに、気付

けば特産品やポスターなどを手がける、地域のデザイナーになっていた。04年には四万十川流域の水でつくられた「山間米」で、米袋としては初のグッドデザイン賞を受賞。また、隣町の地域内だけで消費さ

れていた吉本牛乳を「地乳

（ちちち）」とリブランディングしたところ売上が増加。その後地元の人々が「地乳パン」「地乳プリン」などの商品を次々に展開し、行政まで「地乳のまち」として町おこしを始めたという事例もある。その他、道の



地デザイナーの迫田司さん。

駅の監修や、「すみずみツーリズム」題したと農家民泊の紹介マップ作り、地域の小学生が農業をした産物を地元のスーパーで売るプロジェクト「メイドインちっちゃいな」など、迫田さんのアイデアと遊び心が地域を盛り上げている。

「1町1デ」。全国で 地デザイナーを育成

迫田さんは「地デザイナーは大工や医者と同じく、地

域に必要な役割ではないか」と考えている。地域に暮らし、住民が見過ごしている日常の「アタリマエ」の中に本物の豊かさを見出し、それを編集し、発信する人。

休校になった地域の小学校を利活用 住民が教授、技が学部「大学」を開校

そんな迫田さんが「ずっとやりたかったこと」と言うのが、住民の住民による住民のための、地域の魅力発信プロジェクト。今年4月に設立した「しまんと住民プロジェクト」だ。

四季折々のさまざまな出来事を、住民が取材をし、紙

これが迫田さんの言う「地デザイナー」だ。地元の価値を見つけるために重要なのは、外から来た「よそ者」の視点。そしてそれを形にする鍵は、地域の

やウェブで発信する。「じいさまのいい顔を引き出す天才」という60代のカメラマン・通称のぶちゃんを始め、現在10名程の住民が所属し活動している。

このプロジェクトが主体となり、始めた取り組みがある。今年5月に開校した「西ヶ方大学」だ。

これは、昨年3月に休校になった西ヶ方小学校を活用し、地元住民が山の暮らしで培ったさまざまな知恵や技術を学ぶ大学。「地元にある技術を学部置き換えたら、皆が教授になれるんじゃないか？」という発想から始まったという。

教授陣のほとんどが小学校の卒業生である地元のじいさま・ばあさま。彼らから、鮎魚やシイタケ栽培、大工技術などを学べる10の「学部」を設立。女性の茶飲み仲間からは、郷土料理や保存食を学びながら商品を考案する「お茶のみズ学部」が生まれた。

これまでに炭窯づくりや田植え、BBQ講座などが地域内外の人と共に行われた。2013年度はモニ

中にある。地域に住み、住民と一緒に汗をかき、酒を飲み、生活する中で見えてくるのだという。地デザイナーという発想は、地元に戻りたいけれど仕事がない

ター講座として無料開催するが、今後は事業化し、全国から生徒の募集をかけて運営していくという。

消えゆく日常の中の 価値を残し、未来へ

「大学」というのは一つの模範的な形だが、結果として今、児童の居なくなった小学校に地域の人が集まるようになり、校庭では鮎魚の投網練習をするじいさまと若者の姿がある。先日

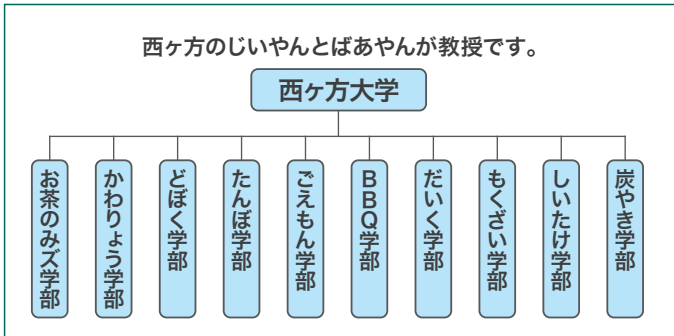
皆で勉強し、BBQインストラクターの試験も受けた。



統合に伴い昨年休校になった西ヶ方小学校が、「大学」のキャンパス。



目下、学校の裏に五右衛門風呂を作るため、コンクリートの橋をかける工事が「どぼく学部」を中心に行われている。



西ヶ方大学の学部紹介。それぞれに学部長がいて、持っている技術を教えてくれる。



谷ぞえにある野趣あふれる「谷間の露天風呂」(硫黄泉)



vol.5

飛び出してきそうなほど、廊下から客室に至るまで創業当時の霧囲気を守り続けている。長命階段と呼

土湯温泉 秘湯の一軒宿・不動湯温泉

大正8年創業のこちらの旅館は、座敷童子が柱の陰から今にも

い旅館だろう。湯温泉は、まさに秘湯と呼ぶにふさわし

山中に佇む土湯温泉の不動湯温泉は、ま

文明の利器であるカーナビでは辿りつけない、山奥にひっそりと佇む温泉旅館。福島西インターから車で約15分、さらに

山奥に迷いこんで大正時代にタイムスリップ

湯浴みの後の食事はすべて部屋出しで、地元の川魚や山菜とともに

一度訪れると、旅館に足を一歩踏み入れた瞬間のタイムスリップに近い感覚が忘れられ

足元に不安がある方でも大丈夫。源泉が3本あるこち

はばかることなく森林浴を堪能することが可能だ。足元に不安がある

段を下ると、谷間に地元の良い食材の露天風呂と名づ

が実現するなど注目を集めている。理由の一つは、このサイトが持つ「まとめるというブランディング力」にある。

東北地方では、約40の被災地で、200を超える多彩なものづくりがなされているというが、その多くが小規模で行われているため

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店



おきらい 越喜来に新名所誕生! 大船渡市三陸町越喜来地区に、最新の凍結施設 CAS を導入し、観光にも対応した番屋施設が竣工した。

東北マニファクチュール・ストーリー 東北のものづくりを、世界に。 「まとめて、拡げる」その強みを生かせ

現場の「物語」を まとめてブランディング

東北発のものづくり現場の情報を集め、ものづくりの背景にある「物語」を紹介するWEBサイト「東北マニファクチュール・ストーリー」。

東北地方では、約40の被災地で、200を超える多彩なものづくりがなされているというが、その多くが小規模で行われているため

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店



東北マニファクチュール・ストーリーのWeb サイト。2013年8月時点11の作り手のストーリーが詳細に掲載されている。

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「東北マルシェ」他、既に9つの販売イベントでの出店

「知る」という支援がある。

東北復興新聞の制作・印刷・発送は、皆様からの協賛で支えられています。
「よきことを、よき人へ」伝えるために。どうぞご支援をお願いします。

■お申し込み方法

Web : http://www.rise-tohoku.jp/

Eメール : assist@h-u-g.jp

FAX : 03-6869-0151

MENU

1 東北復興新聞サポーター 【8,000円/年】

毎号2部をお届けします。(ご友人・同僚の方にも)

2 東北復興新聞パートナー 【30,000円/月】

毎号100部をお届けします。(会社の皆様でどうぞ)